

15歳の成績 美術

12年の学びをとおして

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

日文

検索

12

年の図画工作・美術をとおして

多くの子どもたちは小学校、中学校、さらに高等学校で、図画工作や美術を学び、つくりだす喜びを知り、心と感性を豊かに成長していきます。子どもたちは、どのようなことを考え、成長していくのでしょうか。作品をつくりた子どもの声、作品からそれぞれの思いが聞こえできます。

Primary school children

Middle school students



小学生

「銀河鉄道の夜」より

絵の具 ペン トレーシングペーパー 54×38cm

作者の言葉

向こうからやってくる感じを表しました。
天の川をつけたこと、車体の色、サソリ
の火の燃え方を工夫しました。



◎ 指導者の言葉 生徒作品「闘志に燃えた自分」

自画像の指導で心がけていることは、鏡に映った自分の姿を見つめ、自分とは何者か常に考えながら描いてほしいという授業者の願いを伝え続けることです。どのような状況においても、生徒一人ひとりの生活はそこにあり、今この瞬間を真剣に生きることが、自分の未来につながるという思いを大切にしてほしいと考えています。

導入時には、自分についてさまざまな角度から考え、内面を掘り下げる作業をします。その中で表現したい自分の姿と、それにふさわしい表現方法を探っていきます。デッサンの指導はしっかりと行いますが、必ずしも写実性にこだわらず、表面的なものを突き抜けた内面の表現に向かうように助言します。また、さまざまな作品を鑑賞しながら、表現の幅を一律に狭めないよう配慮します。

生徒は、表現の方法やふさわしい描写の仕方に迷いながら、鏡と格闘し続けます。同じ傾向の表現を確認したり、目の前で描いてみせたり、その内容ならそのやり方でよいと励ましたりしながら、生徒に合った方法で助言します。絵を描くことが得意

な生徒には、技能に偏って空疎にならないように、似ているだけでよいのかと揺さぶりをかけるような言葉を投げかけます。最近では授業時間も少なく、技術的なハードルが高いために自画像の制作は作品づくりを嫌いにするのではないかと言われることがあります。確かに、生徒の制作後の感想は、「難しかった」というものが多いです。しかし、自分の姿と向き合い、これまでの自分の軌跡とこれから出会う世界とに思いを馳せ、作品にすることは、とても大切な時間のように思われます。思いどおりに描けなくとも、有意義な時間だったと思えるような授業づくりをこれからも心がけていきたいと思います。

宮城県名取市立閑上中学校教諭
一條 浩明

中学生

闘志に燃えた自分

鉛筆 水彩 紙 54.6×39.3cm

作者の言葉

私たちは中学校入学直前に大震災に遭いました。大変な生活からようやくここまでたどり着いた、そんな3年間でした。これからも困難を乗り越え自分の進路、そして人生を歩んでいく……。じっくり自分と向き合いながらそんな強い気持ちがわいてきました。それを表す色は何かと考え、オレンジと緑の強いコントラストがよいと思いました。

高校生

教室の片隅

鉛筆 紙 65×50cm

作者の言葉

美術室の片隅を見つめてスケッチしました。何気なく見過ごしてきたものも、よく見て描いているうちに愛着がわいてきました。



スペシャル 対談

中学校美術を軸に、小学校から高校までの12年間という俯瞰的な視点から、美術を学ぶ意義や、美術科が内包する課題などについて、現行の学習指導要領の作成に携わった奥村高明先生と村上尚徳先生、さらに中学校教諭の小泉薰先生、長尾菊絵先生を交えて語っていただきました。

長尾菊絵

(西東京市立ひばりが丘中学校主任教諭)

生徒は動物の筋肉や骨、
関節などを意識して
つくりました。

奥村高明

(聖徳大学教授、前教科調査官・図画工作)

図工や美術の授業は、
ひたすら自分と向き合う
厳しい時間です。



4観点の「見える化」

小泉——まずは現行の学習指導要領をつくりた立場から、定着の度合いや実現状況、現場からのリアクションなどをお聞かせ願えますか？

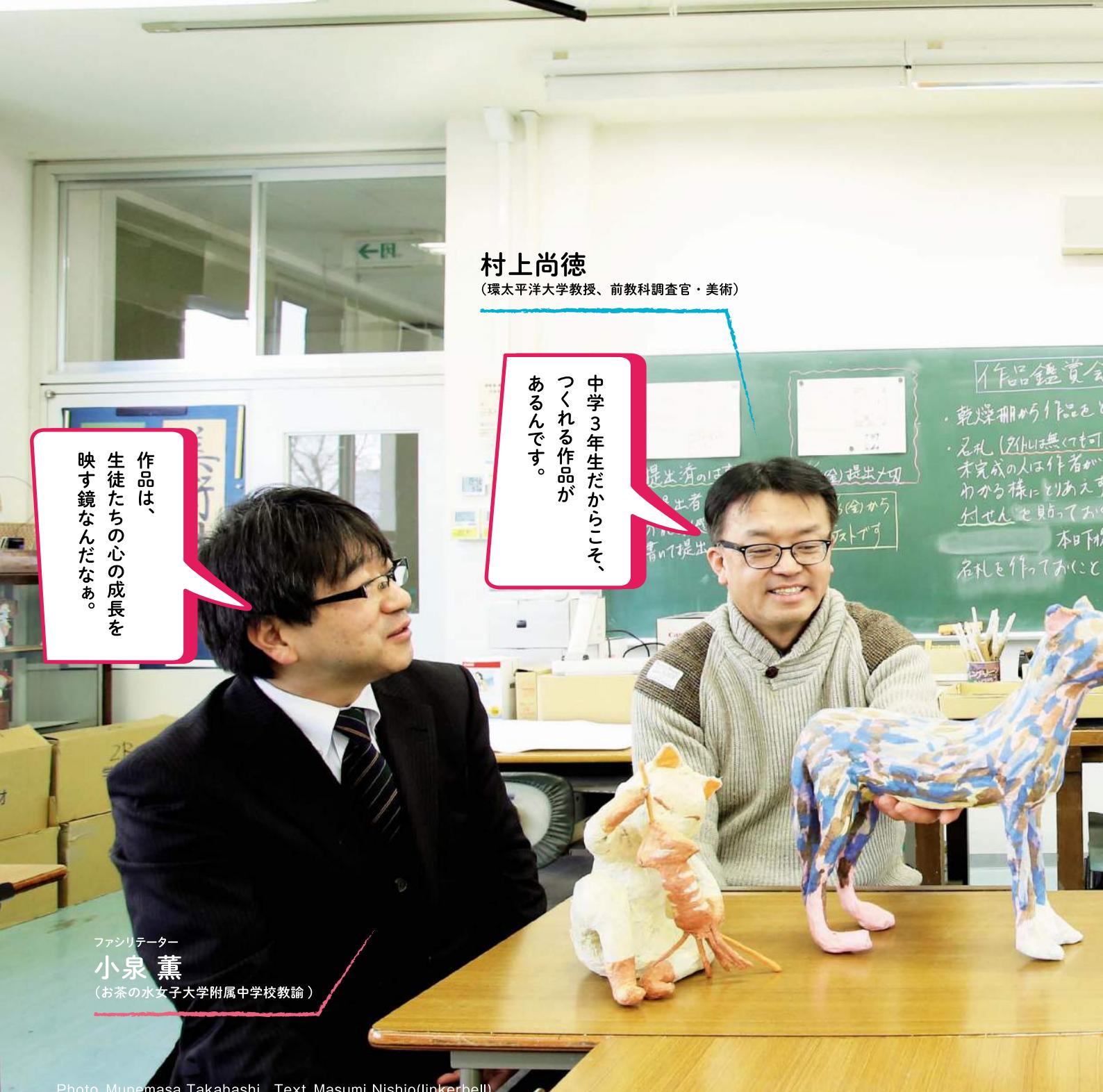
奥村——よく「小中のつながりが良くなつた」と言われるんですが、それは当然のことだと思うんですよね。

村上——そうですね。小中の学習指導要領を無理にすり合わせたのではなく、「美術への関心・意欲・態度」「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」という評価の4観点を軸に学習指導要領を整理したら、自然とつながつたということころでしょうか。高校芸術の美術・工芸の指導事項もこの4観点で整理されているので、小・中・高の12年間の美術教育が育成する資質・能力でつながつたことになります。

小泉——確かに現行の学習指導要領では、一つの題材について何を学んでほしいのか、すつきり見えるようになり、取り組みやすくなりましたね。

奥村——そもそも図画工作と（中学）美術はつながっているんですよ。たとえば、小学校でも中学校でも絵を描きますよね。しかし同じ題材でも、小学生が描く絵と中学生が描く絵はまったく違う。





村上尚徳

(環太平洋大学教授、前教科調査官・美術)

中学3年生だからこそ、
つくれる作品がある
んです。

作品は、
生徒たちの心の成長を
映す鏡なんだなあ。

ファシリテーター
小泉 薫

(お茶の水女子大学附属中学校教諭)

奥村——図工・美術は描き方やつくり方を教えるテクニカルな教科ではなく、見方や考え方を教える思考的、論理的な教科です。作品ありきでテクニックを教えこんでも、生き方に応用可能な技能は身に付きません。どうすれば自分のうちにあ

長尾——中学の美術の授業では、小学校での経験を基に、自分の思いをのせてつくりこんでいく姿が見られます。
奥村——そう、そのつくりり「こむ」ということが中学生ならではの学びなんですよ。小学生では、つくりたり描いたりすること自体に意味がある。中学生はさらにそこから自分自身を表現しようとする。中学生になると、ただ『つくる』だけでは終わらないんですよ。

長尾——生徒たちからもつと工夫をしたいという声が上がると、つい時間をとつてあげたくなって……。

村上——授業時間の不足は美術科の教師にとって永遠のテーマでしょうね。*1でも、時間をかけなければかけただけ良いものができるかと言えば、そうとも言えないでしょう。決められた時間内でどれだけ内容を深められるかは、先生側の工夫のしどころだと思います。時間のあまりしからないような題材であっても、子どもたちの学びはその心の発達度合いによって大きく異なります。奥村先生がおっしゃる小学生と中学生の絵の違いのように、子どもが成長すれば学びも変わる。小学校で絵を描いて、中学校でも絵を描きますが、子どもの中で働く資質や能力は違ってくるわけですね。

るものを表現できるのかを考え、試行錯誤し、考えることで、創造的な技能が身に付いていくのだと思います。



「メタ認知能力」を鍛える

村上——以前、中学1年生で紙コップをスケッチするという授業を見ました。15分程度でスケッチしたものについて、班でお互いの作品についてどこが良くてどこが良くないのかを発表し合い、その情報をみんなで共有した上で、再度各自でスケッチするんですね。そうすると、見違えるようにコップらしく描けるようになります。写実的に描くことだけが絵ではないけれど、描きたいものを描きたい形に描ける力も表現する上ではある程度必要です。中学生の知的な理解が高まる時期にこのようなことをすれば、1時間で絵が変わるものですね。これは、描く技術を教えたのではなく、ものの見方やとらえ方に気付かせたのです。そうすると、別にものを描くときにも応用できるようになつていくんです。

奥村——展覧会などを見に行くと、生徒作品が以前と比べて変わっているのが驚きますね。一つひとつの作品にちゃんと思いいが宿っている。そこから中学生がとても良い状態で美術の授業に取り組んでいるのがわかります。学習指導要領を先生

方がしつかりと読み解いてくれているんだと嬉しくなります。

村上——作品のタイトルも変わってきましたね。校舎を描いた絵でも、以前は単なる「校舎」という題名が多かつたですが、最近は「○○の校舎」のように、何が描きたかったのかという主題がはっきりしている題名の作品が増えました。

長尾——それも、学習指導要領が整理され、「生徒に身に付けさせるべき資質・能力」がとらえやすくなり、それに則った教科書がつくられたからなのでしょうね。

小泉——昔の美術科の先生は、それこそ個人芸と言いますか、教科書や学習指導要領など使ったことも読んだこともないとおっしゃる方もいらっしゃいました。

村上——「手引き書」などにあるテクニックを用いれば、確かに見栄えのする絵は描けるでしょう。でも描いた子どもたちは、主題や構想を練る力を身に付けることが果たしてできるでしょうか。もちろん、うまく描けたといふ満足感は得られるでしょ。しかし、創造する喜びやつくり出す、生み出す喜びは得られないでしょう。



【老いたフェンス】 中学1年生
アクリル 紙 径25.8cm

▲作者の言葉
切れたフェンスから時間の流れを感じました

奥村——自分の思いを表現した作品は、「自分そのもの」なんです。それを作品

『自分を見つめ直し、修正や工夫を加えていく。つまり、一步引いて、外から自分で見ている目があるということです。これは「メタ認知」ですよね。子どもたちはあまり意識せずにそれを行なながら

していく。つまり、外から自分で見つめ直すことです。

『これは「メタ認知」ですよね。子どもたちはあまり意識せずにそれを行なながら

作品をつくっていますが、もう一人の自分が自分について考えるというクリエイティブな学びは、他教科ではなかなか得られないものだと思います。

村上——他の教科では、国語の作文もそれに当たるでしょうね。

奥村——そうですね。数学のように全員同じ

*1 授業時数の変化

区分	第1学年	第2学年	第3学年
必修教科の授業時数	国語	175	175
	社会	140	140
	数学	140	140
	理科	140	140
	音楽	70	70
	美術	70	70
	保健体育	125	125
	技術・家庭	105	105
	道徳の授業時数	35	35
	特別活動の授業時数	50	50
選択教科にあてる授業時数	140	140	140
総授業時数	1,190	1,190	1,155

「昭和44年 中学校学習指導要領」

学校選択で、各学年週2時間の美術の授業。

別表第二（第七十三条関係）

区分	第1学年	第2学年	第3学年
各教科の授業時数	国語	140	140
	社会	105	105
	数学	140	105
	理科	105	140
	音楽	45	35
	美術	45	35
	保健体育	105	105
	技術・家庭	70	70
	外国語	140	140
	道徳の授業時数	35	35
総合的な学習の時間の授業時数	50	70	70
特別活動の授業時数	35	35	35
総授業時数	1,015	1,015	1,015

「平成20年 中学校学習指導要領」

選択教科が実質なくなり、各学年週1時間に。

13年間ずっと一緒に生きてきた。

奥村—そうか、死んでしまったんですね。

長尾—その生徒がすごく暗い時期があつたときに、実は兄弟のように育つてきた犬が死んでしまったんだと話してくれたんです。天国から自分を見守ってくれているということを表現するために、犬に羽を生やした……。この作品をつくることがなければ、私は生徒とこのような話をすることはなかつたで

しょう。生徒のそうした意識の深いところにある気持ちを、作品発表会をとおしてクラス全体で共有できるということも、美術ならではのすごさなんじゃないかと思います。



中3だからできる学びがある

小泉—日々、生徒たちの作品を見ていて感じるのは、作品は生徒たちの心の成長を映す鏡なんだなあということですね。

たとえば、毎年自画像を描かせていました。中学3年生になると描写がガラ

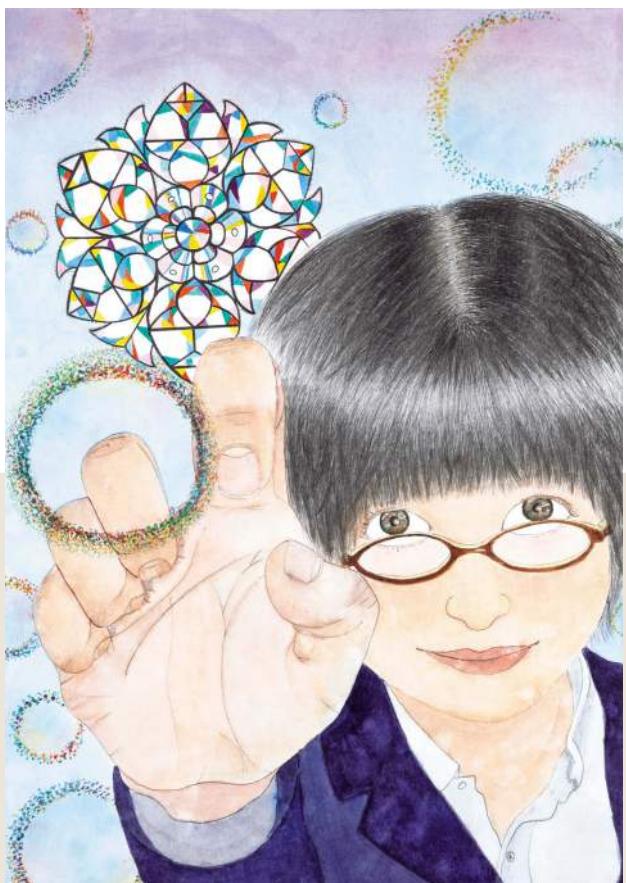
奥村—子どもたちは日々さまざまな経験を重ね、成長している。長尾先生の選んだ題材が、羽の生えた犬をつくった生徒の成長過程にぴたりと合致していたからこそ、生徒は素直に心のうちを表現できただしょ

うね。

りと変わる。

長尾—1年生は、自分の中にあるものを表現しようとしているように思います。そして2年生になると、自分と周囲とのかかわりを描こうとする。さらに3年生になると、自分と社会とのかかわりを考えて描いているなど感じます。

奥村—学年によって、子どもたちの発達はぜんぜん違います。子どもの成長を「ざつ」と見ないでほしいですね。学習指導要領も小学校は「低学年」「中学年」「高学年」ではないんです。「1・2学年」「3・4学年」「5・6学年」ですし、中学校は「1学年」「2・3学年」、高校は「1学年」「2学年」「3学年」と細かく分けています。



心の中の自画像 中学3年生
アクリル ペン 紙 42×29.8cm



鑑賞教育で価値意識を高める

長尾—中学3年生ならではの学びがあるということを意識すると、授業者として実践していく責任を強く感じます。

村上—中学3年生の学びといふことでは、カリキュラムを教師がつくりしていく上

で、さまざまな葛藤があり、自分の将来や生き方などにも関心を深める時期です。このような中学3年生だからこそつくれるものがある、描ける自画像があるんですね。中学3年生にならないと身に付かない力や、理解しにくい価値観などがあるんですね。それは大人になつていく上で大事なものなんですね。だから、中学3年生まで必修教科として美術を学ぶ必要があるんです。

小泉—生徒たちの心の成長に合わせたとえば、毎年自画像を描かせていました。中学3年生になると描写がガラ

で、中学校美術の教科書が「1年」「2・3上」「2・3下」はおよそ2年生、「2・3下」はおよそ3年生の発達段階を考えた題材構成がなされていて、特に若い先生方や免許外の先生方が増えてきている中で、2年生と3年生との学びの違いや、3年生ならではの学びが多くの学校で保障されるということですね。

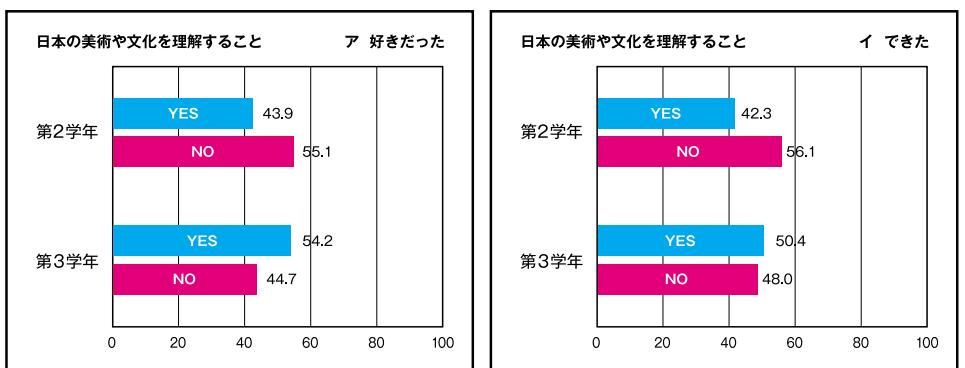
奥村—やはり教科書は「頼りになる存在」であるべきだと思いますね。新版の国画工作の教科書^{*2}を拝見しましたが、「学習指導要領を具現化している!」と思いました。学習指導要領の発表からすでに6年が経過し、ある程度「これた」ところで出るという、そのタイミングが良いんでしょうね。良い仕上がりの教科書になっています。

村上—「2・3上」はおよそ2年生、「2・3下」はおよそ3年生の発達段階を考えた題材構成がなされていて、特に若い先生方や免許外の先生方が増えてきている中で、2年生と3年生との学びの違いや、3年生ならではの学びが多くの学校で保障されるということですね。

なと感じています。

村上—中学3年生の学びといふことでは、日本の中学生への質問紙調査^{*3}では、「日本の美術や文化を理解する

*3 日本の美術や文化について



「音楽等質問紙調査」国立教育政策研究所・平成16年度

*2 「平成27年度版 図画工作教科書1・2上」
日本文教出版刊

これが好きだった」「日本の美術や文化を理解することができた」という質問に
対して、肯定的に答えていた生徒の割合は、中学2年生では半数以下なのに対し、
中学3年生では半数を超えていました。美術文化は、一つの作品を見ただけではわ
からない。ある国のある時代の複数の作
品を見て、そこから共通の美意識や創造
的な精神を感じ取って、初めて文化とい
うものがわかる。これは中学3年生くら
いにならないと、十分理解できない内容
だと思います。

奥村——中学3年生という自分が確立する
大事な時期に、「美術」に触れるといふ
のはとても大事なことです。美術鑑賞
は、「これが『美術』なんだ」「これが『美
しい』とされているものなんだ」という
ことを理解するためだけでなく、「果た
してこれは美しいのか」「美術とは何か」
など自分の中の価値意識を高めるという
役割を持っています。日本の作品と海外
の作品を見比べることで、日本と海外の
文化の違いも感じられるでしょう。

小泉——鑑賞の題材については、どのよう
な基準で選定していくべきと思われます
か?

奥村——それについては「鑑賞教育・jp
(<http://kanshokyoikujp.jp/>)」というウェ
ブサイトをご覧いただきたいと思います。
「この学年にはどんな作品を鑑賞させる
と良いのか」「この作品はどこにポイン
トをおいて鑑賞すると良いのか」といつ
た先生方の疑問や悩みを解きほぐしてい
こうと考案したものです。

長尾——「鑑賞教育キーワードmap」と
は、どんなものですか?

奥村——まず学年を選んで、さらにキー
ワードを選択すると、それに適した作品
が抽出されるという仕組みです。

長尾——簡単で、直感的ですね。

奥村——「鑑賞教育・jp」では、東京国
立近代美術館（本館・工芸館）、国立西
洋美術館、東京国立博物館の所蔵作品を
検索することができます。作品解説も掲
載していますし、マウスオーバーで拡大
表示させることも可能です。また、たと
えば岸田劉生の『道路と土手と堀（切通
之写生）』と東山魁夷の『道』、和田三
造の『南風』と萬鉄五郎『裸体美人』の
ように、比較鑑賞の実践例が紹介されて
いる作品もあるので、参考にしていただ
ければと思います。

小泉——学年やキーワードにも一つひとつ
解説が付いているんですね。「中2・3」
という項目には「中学2・3年は、形の
微妙な位置関係や色の性質など複雑な要
素を分析の根拠としながら鑑賞するよ
うになります」と出ました。そして「内
省」は「自己と向き合う……」。なるほ
ど、これは鑑賞の授業を組み立てる際に
活用できそうです。

村上——美術の授業では表現に重きを置き
がちですが、鑑賞も重要です。日本の美
術文化に触れ、理解を深めていくことで、
日本人としての礎をつくっていくことに
なります。

奥村——まさに「国民力」を育成している
と言えるのではないでしょうか。

長尾——生徒たちあとから振り返ったと
きに、この作品をつくっていたときはこ
んな気持ちだったんだと思い返すことが
できるようですね。「なんて恥ずかしいこ
とを書いていたんだ」と顔を赤くしなが
ら、大切そうに作品を持ち帰る子もいま
すね。

奥村——過去の自分を冷静に見つめる目を

ことが好きだった」「日本の美術や文化
を理解することができた」という質問に
対して、肯定的に答えていた生徒の割合
は、中学2年生では半数以下なのに対し、
中学3年生では半数を超えていました。美
術文化は、一つの作品を見ただけではわ
からない。ある国のある時代の複数の作
品を見て、そこから共通の美意識や創造
的な精神を感じ取って、初めて文化とい
うものがわかる。これは中学3年生くら
いにならないと、十分理解できない内容
だと思います。

奥村——中学3年生といふ自分が確立する
大事な時期に、「美術」に触れるといふ
のはとても大事なことです。美術鑑賞
は、「これが『美術』なんだ」「これが『美
しい』とされているものなんだ」という
ことを理解するためだけでなく、「果た
してこれは美しいのか」「美術とは何か」
など自分の中の価値意識を高めるという
役割を持っています。日本の作品と海外
の作品を見比べることで、日本と海外の
文化の違いも感じられるでしょう。

小泉——鑑賞の題材については、どのよう
な基準で選定していくべきと思われます
か?

奥村——それについては「鑑賞教育・jp
(<http://kanshokyoikujp.jp/>)」というウェ
ブサイトをご覧いただきたいと思います。
「この学年にはどんな作品を鑑賞させる
と良いのか」「この作品はどこにポイン
トをおいて鑑賞すると良いのか」といつ
た先生方の疑問や悩みを解きほぐしてい
こうと考案したものです。

長尾——自分の経験から美術という教科を
立近代美術館（本館・工芸館）、国立西
洋美術館、東京国立博物館の所蔵作品を
検索することができます。作品解説も掲
載していますし、マウスオーバーで拡大
表示させることも可能です。また、たと
えば岸田劉生の『道路と土手と堀（切通
之写生）』と東山魁夷の『道』、和田三
造の『南風』と萬鉄五郎『裸体美人』の
ように、比較鑑賞の実践例が紹介されて
いる作品もあるので、参考にしていただ
ければと思います。

小泉——学年やキーワードにも一つひとつ
解説が付いているんですね。「中2・3」
という項目には「中学2・3年は、形の
微妙な位置関係や色の性質など複雑な要
素を分析の根拠としながら鑑賞するよ
うになります」と出ました。そして「内
省」は「自己と向き合う……」。なるほ
ど、これは鑑賞の授業を組み立てる際に
活用できそうです。

村上——その点、長尾先生にお持ちいただ
いた生徒作品は、作品タイトルに加えて
作者によるコメントも付記されていて良
いですね。どんな思いをこめてつくった
のか、それがちゃんと表現されているか
は評価の基にもなります。

奥村——その点、長尾先生にお持ちいただ
いた生徒作品は、作品タイトルに加えて
作者によるコメントも付記されていて良
いですね。どんな思いをこめてつくった
のか、それがちゃんと表現されているか
は評価の基にもなります。

小泉——最近は展覧会でも、コメントの付
いている作品が多いですよね。

長尾——生徒たちあとから振り返ったと
きに、この作品をつくっていたときはこ
んな気持ちだったんだと思い返すことが
できるようですね。「なんて恥ずかしいこ
とを書いていたんだ」と顔を赤くしなが
ら、大切そうに作品を持ち帰る子もいま
すね。

奥村——過去の自分を冷静に見つめる目を

村上——「美術は、中学3年生では選択
科目でもよい」といった声も聞きますが、
きっとその人たちが受けた美術の授業は、
絵の描き方やもののつくり方などのテク
ニックを学ぶ時間でしかなかったのかも
知れませんね。

持っている。それこそしっかりと成長している証しですよね。成長したからこそ、過去の自分が恥ずかしく、そしていとおしいんです。「作品」という「過去の自分」と向き合えるって、すごい教科だと思いますか？



自己と向き合える強さ

小泉—学習指導要領の発表から6年が経ち、ある意味「こなれてきた」というお話をありましたが、こなれてきた今だからこそ見えてきた、図工や美術の授業での課題はありますか？

奥村—教科書（新版図画工作）どおりに進めていけば何の問題もないのではないかと（笑）。

長尾—課題としては「教科書がすばらしいのに授業で活かしきれていないね」と言われないようにしなくては、ということでしょう。

村上—きっとすばらしい授業がたくさん生まれてくることでしょう。そのような、新たな優れた実践を、うまくシェアできる仕組みがあると良いですね。

長尾—それはぜひ！もちろん、実際に足を運んで研究授業を見たり、積極的に研究会に参加するのが一番だけは思います。中学校では、都中美（東京都立中学校美術教育研究会）などで多くの

「小学校 図画工作5・6下」

題材

「わたしの大切な風景」



A
表
現

小中高系統例（風景画）

始まる一日

絵の具 ペン 紙

題材の目標 毎日の生活を見つめることで見つけた、大切に思う風景を絵に表す。

材料・用具 教師…画用紙 色画用紙 アイデアスケッチ用紙 バステル コンテなど
児童…水彩用具一式 サインペン クレヨン・バスなど

場の設定 広い作業机を用意したり、教室の机を合わせたりするなどの工夫ができるといい。

評価規準の例 関 每日の生活の中から、大切に思う風景を見付け、絵に表すことに取り組もうとしている。

想 每日の生活を見つめながら、大切に思う風景やその様子を考えている。

技 大切な風景の様子や思いなどが表れるように、表し方を工夫している。

鑑 自分や友人の絵を見て、大切にしたい思いや作品のよさを感じ取っている。

すばらしい実践を見て学ばせていただきました。でも現状として、激務という言葉が決して大きさではない忙しさの中で「そうした時間がとれない」という先生も多いと思います。それこそ、先ほど奥村先生に紹介いただいた「鑑賞教育・jリ」のように、網羅的に検索できたら良いなと思います。

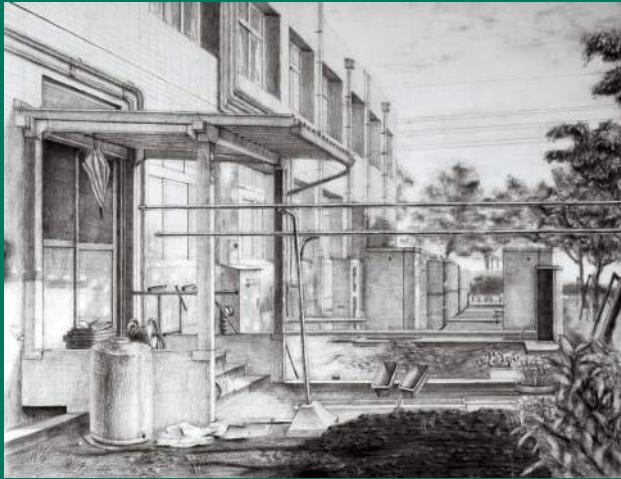
奥村——これは課題ではなく期待なのです。が、新版の教科書をベースに、思いをこめた強い作品がたくさん生まれることを願っています。よく「図工や美術が得意な子は繊細だ」なんて言われますが、それは大間違です。図工や美術の授業というものは、ひたすら自分と向き合い続ける「厳しい」時間です。大人だって子どもだって、自分と向き合える人間というのはとても強い人間ですよね。私たちは強く生きる子を育てているんです。そして、自分と向き合い、自己を考えるということは、他者を考えるということと同一です。子どもたちは、自分で自分をつくりていくという過程において、自分が大事にし、同様に他者を大事にしようとする心をはぐくんでいくのです。

小泉——そういう意味では、図工や美術は「生きる力」の育成に直結している教科と言えますね。

村上——そうですね。先生方には、そのような図工や美術の良さをしっかりと意識して子どもたちの指導に当たっていただきたいと思います。

「高等学校 美術！」

題材 「生活している場を描く」



■ 鉛筆 水彩 紙

題材の目標 普段生活している見慣れた教室や校庭などにも美しさがあることに気づき、心を動かされた場所の雰囲気までとらえて表す。

評価規準の例 関 何気ない風景などから、美しさやおもしろさを発見し、それを愛着を持って絵に表そうとしている。

想 描く場所の魅力を十分表現するための構図について、スケッチなどを重ねて吟味している。

技 遠近法により正しく空間を描き、明暗を適切にとらえ、ものの質感表現などを工夫している。

鑑 作家作品や友人の作品を鑑賞し、場所を選んだ理由やそのよさを表現する工夫など、作者の意図を理解している。

「中学校 美術！」

題材 「なぜか気になる情景」



■ 渡り廊下

アクリル 紙

題材の目標 毎日の生活の中で、見慣れている場所やものを見つめ直し、その特徴を絵に表す。

評価規準の例 関 生活の中で気になる場所やものなどを見つけ、その特徴をとらえて表すことに取り組もうとしている。

想 気になる場所やものなどから、表したい主題を明確にし、構想を練っている。

技 場所やものなどの範囲や画面の構成、奥行き感や色彩などを工夫している。

鑑 気になった場所を、どのように工夫して表しているかを感じ取ろうとしている。

小・中・高をとおして「図画工作・美術」の 教科書をつくっているのは、日文だけ。 これからも「図画工作・美術」を応援します。

小学校図画工作から中学校美術、そして高等学校美術・工芸まで、半世紀以上にわたり日文は、
子どもたちの成長に寄り添った教科書づくりを目指してきました。

小学校図画工作教科書



中学校美術教科書



高等学校美術教科書



高等学校工芸教科書



15歳の美術 12年の学びをとおして

日文教育資料〔図画工作・美術〕

平成27年(2015年)3月18日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL:06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

アートディレクション: おおうちおさむ デザイン: 小幡彩貴 児玉英里子
CD33263

日本文教出版 株式会社
<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F-B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690